資料1

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和5年度
意見交換会（第1回）

宮城県

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局
2023年5月25日

1．意見交換会･実践の場の全体像

■意見交換会・実践の場の位置づけについて

意見交換会

以下の目的のため、復興庁と会員団体等（主に副代表団体）が集まり、意見交換を行う。

1. 互いの活動情報を共有し合うこと

2. 地域の課題解決に向けた、多様な主体による協議・協働を生み出すこと

→

実践の場

意見交換会の議論を踏まえて企画した具体的プロジェクトの実施を通じて、地域の抱えている課題解決や国内外への情報発信につなげること

■今年度の進め方について

- 協議会の運営、意見交換会・実践の場の枠組みを用いた議論・推進の取組を継続
- 昨年度と同様に、**具体的なプロジェクトの企画・実施を通じて、多様な主体による協議・協働**を生み出す
- 単年度のみのイベント実施に終わるのではなく、**企画にかかわった方の継続的な関係性の構築など、地域や被災地外に何か（＝ノウハウ）を残す**ことができるような取組を目指す

地域課題の整理 → **具体的なプロジェクトの企画** → **企画実施 情報発信**

過年度の実施内容を踏まえ、取組テーマを検討

多様な主体による協議・協働を生み出す

得られたノウハウ等を被災地内外に広める

● 2．過年度実施状況：全体像

○ 宮城県の近年の取組では、観光まちづくりや教育旅行、エクスカーションプログラムなど、**観光分野に着目して取組を実施**

○ 令和4年度の意見交換会・実践の場では、2023年のG7、2025年の大阪・関西万博、各種MICE等を見据え、**宮城県沿岸地域におけるエクスカーションプログラムを検討**

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
テーマ	地域コミュニティづくり、ソーシャルセクターのあり方	セクター間連携による地域課題解決	沿岸地域の仕事の担い手不足解消（特に東松島市の観光分野）	東日本大震災から10年目にあたって	地域の魅力の磨き上げ	持続可能な地域文化の継承と磨き上げ
実践の場	連携型交流会 in 宮城「NEW TOHOKU PITCH Vol.0」（仙台市） ソーシャルセクター３団体による「新しい東北」創出に向けたビジネスモデルやサービス等をピッチ形式で議論	「南三陸をつなげる30人」（南三陸町） 南三陸町内外の約30人が集まりフューチャーセッションを通じて、南三陸の将来像や、課題解決に向けたセクター間連携の在り方を検討	「牡蠣で東松島を盛り上げよう！～牡蠣を観光まちづくりのシンボルに～」（東松島市） 東松島の民間企業・NPO・住民が連携して取り組む“観光×SDGsの企画”を検討し、実行計画案を作成（地域一体となって観光まちづくりを 行う枠組みを構築）	「みやぎ復興官民連携フォーラム ～東日本大震災10年目の今、復興をきっかけに生まれた『連携』の姿とその将来像を考える～」 東日本大震災から今までに実施した官民連携による先駆的な取組事例に焦点を当て、総括を行うとともに、現在進行形の復興活動や今後の災害対応等に資するノウハウ・将来像を検討	「『学ぶ旅』と旅行者データ活用による観光振興 座談会」（石巻市） 「多様な事業者が関与する「観光」をテーマとした推進」を切り口に、地域の課題に挑戦している事業者の観光コンテンツの磨き上げやデータ利活用について協議。 　これら協議の結果を観光事業者へ発信し意見交換をする場として開催。	「宮城県沿岸地域エクスカーションプログラムモニタリングツアー」 仙台港周辺賑わい創出コンソーシアムとともに、行政関係者や学者、研究者など知識層を主なターゲットとして想定し、宮城県の被災・復興の状況の理解を深め、防災に関する意識を高めるためのモニタリングツアーを実施。

● ３．過年度実施状況：令和４年度の取組詳細

令和４年度の実践の場の企画内容

【背景】

- 2023年のG7、2025年の大阪・関西万博、各種MICE等により国内外から東北に訪れる方が生じる機会をとらえ、**宮城県沿岸部のエクスカーションプログラム**を検討。

- 具体的には、**仙台港周辺賑わい創出コンソーシアム**とともに、行政関係者や学者、研究者など知識層を主なターゲットとして想定し、**宮城県の被災・復興の状況の理解を深め、防災に関する意識を高めるため**のモニタリングツアーを実施。

【目的】

- モニタリングツアーの**コース自体に関する評価・ブラッシュアップ**

- 同じコースを体験した自治体、旅行会社、現地の事業者等の**ネットワークづくり**と**課題の共有**

宮城県沿岸地域エクスカーションプログラムモニタリングツアー

●日時：2023年１月30日（月）
●場所：宮城県仙台市・松島町
　　・東松島市・石巻市
●行程：
- 東北大学出前授業（仙台駅付近会議室）
- 仙台うみの杜水族館見学
- 松嶋離宮での食事
- 東松島語り部ツアーに参加
- 「震災遺構　仙台市立荒浜小学校」見学
- 参加者による意見交換

●参加者：25名（うち、招待者12名、仙台港周辺賑わい創出コンソーシアム３名、県・連携復興センター・東北大学・七十七銀行６名、復興庁・復興局４名）、他事務局

今年度の取組に関する議論内容（令和４年度第３回意見交換会）

○　今年度の取組については、
- **エクスカーションプログラムの具体化・商品化を目指し、**
- **副代表団体が行っている取組とも連携し、プログラムのコンテンツと出口をしっかりと固めていく**

という大きな方向性について同意。

（参考）令和４年度第３回意見交換会での主な意見

○ **自走化させていくという観点**で見たときには、**もう少し深掘りが必要**になると思う。いろいろな方々のニーズに合わせ、**ある程度採算が合うような形の商品化**ができるのか、もう少し詰めなければいけないと思う。
○ 今回は実証実験を１つやったが、いくつか**他の候補、ルート案**も我々の中では議論していたし、多賀城も今年から来年にかけて新しい魅力的な施設ができてくる。**来年度も、より深めていくような取組を継続**できると、実現に近づくのではないかと期待している。
○ 例えば「防災全般」とか「東日本大震災全般」、「地域での防災活動について」とか「子ども向けの防災」「産業復興について」など**テーマをいくつか考えて基本パターンを作り、モデルとして見せていく**のが、他の地域の方からするとわかりやすい。
○ 今後の造成では１日終日ではなく半日バージョンなど、**時間的なフレキシビリティのあるプログラム**が検討できれば、よりニーズにマッチするのではないか。

○ **汎用性のあるものを作り、会議のエクスカーションプログラムとして実際に使っていただく**ところが重要だと思っている。“せっかくここまで作ったのに、そのままにすると蒸発していってしまう”ので、それをブラッシュアップして上手く組み込める形にしていくのが来期、取り組むべき１つの課題ではないかと感じている。
○ **学会などに実装し、評価してもらうといった段階**に進めたら良い。社員研修等の話も魅力的だが、来年度全部を実現しようとすると大変なことになってしまう。新しいモデルコースに手を出すのではなく、**今年度の取り組みを少しブラッシュアップし、実装させていく**のがよい。
○ 最終的に商品化を見越したとき、**研修旅行などアプローチしやすい出口を１つ見出し、そこに絶対に入れ込む**という話であれば、もう少し具体化できるような気がする。
○ 専門家が集まる機会は限られてくるので、例えば**企業の研修ツアー**みたいな形で**ある程度ターゲット層を絞ったものを用意**しておいて、時期を定めずとも、いつでも実施できる体制を整えることはいいと思う。

○ 今は宮城県も含め被災地ごとの連携がなく、震災伝承施設同士がつながっていることもほとんどない状況だ。この取組をきっかけに、例えば**ツアーを主催する側が「こことここを連携させましょう」という形でつなげていける可能性**はあるのかという気がしている。
○ **各施設の横のつながりがもっとわかるような仕組み**があると、他の施設を見ていただくことにも寄与できるのではないかと思う。
○ **複数の異なる施設を跨いで、一定の基本的な情報をわかりやすく、できれば外国語も含めて伝えることができるような人材の準備・育成**ができると、よりプログラムが具体化し実現していく可能性が高まるのではないかと思う。
○ ターゲットに応じて各施設の色々なつなぎ方ができるように、**各施設をメニューのように示して、上手く組み合わせ、合うものを提供できる協力体制**をしっかりと作っておくことが必要だと思う。

○ 今年度のように持続性や実現可能性が求められるプロジェクトの場合、**地域に根差した取組とする必要**があると思う。また他のご意見として、東北に人を呼び込むという意味では**福島、岩手のプログラムと連携した３県を横断したエクスカーション**、の必要性も考えられる。地域の官民のネットワーク体とも有機的につながりにて、情報交換や個別のプロジェクト間の連携みたいなところも図られていくと、我々の取組が少し具体化に近づくのではと考える。
○ 今までの自分の経験から言うと、復興についての話を聞きたいという方もいるが、やはり**観光を皮切りにそこから震災の話をする**というケースが非常に多い。観光と切り離して考えるよりも、**どうやって融合させていくか**を考えるといいのかなと思う。
○ 第１回意見交換会では、「観光と震災を結びつけるというと拒否感がある」といった話があったが、実際にツアーに参加すると「復興の姿を見たい」という感想が一番多く感じられた、**復興の姿の発信をしっかりコンテンツ化する**ことが非常に大事だと思った。

● ４．今年度の取組方針

【今年度の取組方針】
- **エクスカーションプログラムの具体化・商品化を目指し、**
- **副代表団体が行っている取組とも連携し、プログラムのコンテンツと出口をしっかりと固めていく**

⇒ 今年度は**「エクスカーションプログラム」の試行の年度**とする。

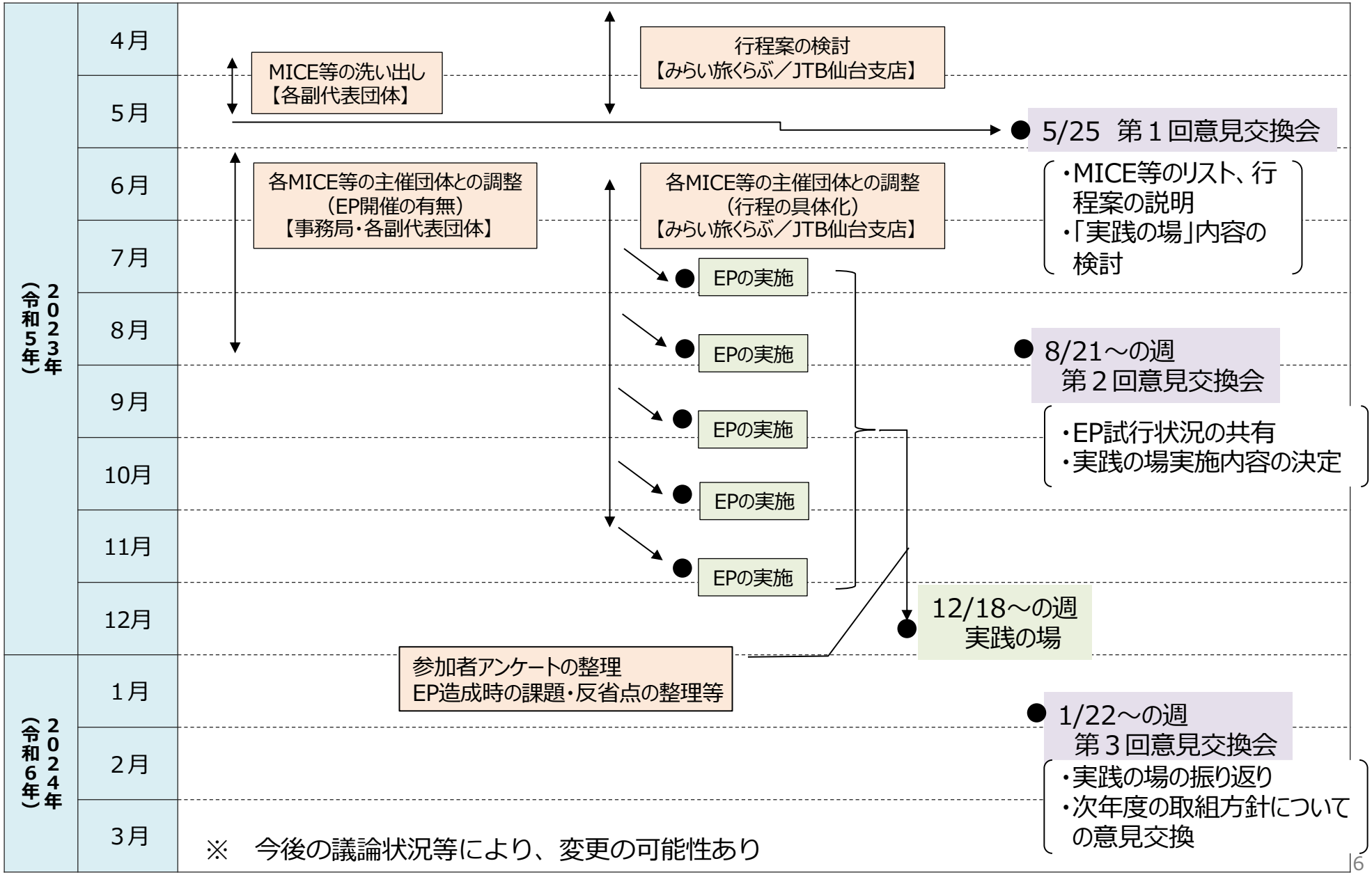
● **副代表団体が行っている取組との連携**
✓ **副代表団体が関わるMICE等を対象**とした試行実施
※ 今年度、５～10回程度の試行実施が可能か

● **プログラムコンテンツ・ツアー内容の深堀り**
✓ 昨年度のエクスカーションプログラムに関係いただいた旅行会社、現地ガイド等とも連携して、**モデルコースを検討**
✓ MICE等の主催団体と調整の上、**実際に販売する商品ツアー**として具体化

● **最終的なプログラム出口の明確化**
⇒ 当面の出口として、**関西・大阪万博開催時のプログラム化**を目指す

５．意見交換会・実践の場のスケジュール案

※　EP:エクスカーションプログラム



● 6．MICE等の洗い出し結果の共有

○ 副代表団体の皆様に対してエクスカーションプログラムの試行が考えられるMICE等のリストアップを事前に依頼。
○ 結果として、東北大学より、以下の会議の情報をいただいたところ。今後、具体的な実施に向けて調整を進める。
○ **エクスカーションプログラムの試行が考えられる会議等について、更なるリストアップが可能か。**【論点①】

＜副代表団体が主催となる会議＞

会議・学会・イベント名	主催	実施日時	実施場所	内容	対象者	参加人数（想定）
第13回巨大津波災害に関する合同研究集会	東北大学（予定）	12月7日～8日（予定）	（仙台・予定）	https://www.tsunami.irides.tohoku.ac.jp/jp/news/detail---id-164.html	研究者	

⇒ エクスカーションプログラムの実施に向け、今後、事務局と東北大学、旅行会社で具体の調整。

＜副代表団体以外が主催、副代表団体が参加等する会議＞

会議・学会・イベント名	主催	実施日時	実施場所	内容	対象者	参加人数（想定）
防災教育学会 大会	防災教育学会	6月10日～11日	関西国際大学 尼崎キャンパス	http://bosai-education.net/	学会会員	
防災推進国民 大会2023	内閣府	9月17日～18日	横浜国立大学	https://bosai-kokutai.jp/2023/	（一般）	約15000人（2019年）
日本自然災害学会 学術講演会	日本自然災害学会	9月17日～18日	金沢大学 角間キャンパス	https://www.jsnds.org/annual_conference/	学会会員	
日本地震学会 2023年度秋季大会	日本地震学会	10月31日～11月2日	パシフィコ横浜	https://www.zisin.jp/event/list.html	学会会員	
日本災害医学会総会 学術集会	日本災害医学会総会	2024年2月22日～24日	みやこめっせ（京都市勧業館）	https://jadm.or.jp/contents/meeting/	学会会員	

⇒ 会議自体のエクスカーションプログラムとして実施可能か、参加ブース等でのツアーの案内は可能か、など主催団体等と要調整。

７．エクスカーションプログラム行程案について

○　みらい旅くらぶ、JTB仙台支店に昨年のエクスカーションプログラムでの指摘内容も踏まえたうえで、エクスカーションプログラムの行程案を作成依頼。**行程案について、ご意見をいただきたい。**【論点②】

●語り部コース①（みらい旅くらぶ作成）

場所	開始	終了	交通機関	行程
仙台駅 集合 出発	8:45 9:00	9:00	各自 専用車	各自、仙台駅の集合場所に集合 ※マイクロバスの場合は東口貸切バス乗り場 ※ハイエースなどのバンの場合は西口タクシープール
震災遺構 仙台市立 荒浜小学校	9:50 10:00	10:45		震災遺構仙台市立荒浜小学校に到着 語り部ガイドツアー（45分程度）
伊達の牛タ 本舗	11:30 11:45	12:45		レストランに到着 昼食（基本：ハンバーグランチ）
名取・閖上 日和山	13:15 13:20	14:30		語り部タクシーの運転手による語り部ツアー 震災を実際に体験した運転手からの生の語り部が聞くことができます
仙台うみの 水族館	15:00 15:05	16:30		仙台うみの杜水族館に到着。 水族館の館内ツアー
仙台駅 到着 解散	17:05 17:20			仙台駅に到着 ※バスの場合は東口貸切バスバス乗り場 ※ハイエースなどのバンの場合は西口のタクシープールへ 到着後、順次解散となります

＜本プログラムのポイント＞

○　本プログラムの狙い

✓　震災遺構の見学や語り部による実体験に基づいた解説を通じ、震災による被害を具体的に実感し、防災意識の向上を図る

- 荒浜小学校の語り部ツアーを通じて宮城県沿岸地域の震災の様子を体感
- 語り部タクシーに乗車。震災による街の被害・復興の様子を視察

✓　行程全体を通じての「震災から復興へ」というストーリーの発信

- 仙台うみの杜水族館では、通常行われていない館内ガイド付きのツアーを体験
- 単なる水族館での生き物見学とするのではなく、被災したマリンピア松島水族館から飼育動物と飼育員が移籍したというストーリーや松島湾のアマモ場の再生に向けた取組など、水族館の運営を通じた復興に向けた想い・取組を発信

○　昨年度の検討結果の反映

- コンテンツを３か所に限定し、**余裕のあった行程組み**を実施
- 行程への**スルーガイドの添乗**
- 訪問者のニーズに応じた情報発信を行うための**「語り部タクシー」**の活用
- 「震災から復興へ」というストーリーでの情報発信を行うため、**前半で震災遺構を訪れ、最後にうみの杜水族館を訪れる**ツアー行程

７．エクスカーションプログラム行程案について

●語り部コース②（JTB仙台支店作成）

交通手段	現地時間	行　程		
専用車	09：30	仙台駅東口貸切バス駐車場に集合		
	09：35	出発		
	10：00	うみの杜水族館到着		
		館内見学（90分）		
	11：30	うみの杜水族館出発		
	12：00	松島離宮到着		
		昼食（60分）		
	13：00	松島離宮出発		
	13：30	荒浜小学校到着		
		荒浜小学校にてガイドツアー（60分）		
	14：30	荒浜小学校出発		
	14：45	アクアイグニス仙台到着		
		アクアイグニス仙台見学（60分）		
	15:45	アクアイグニス仙台出発		
	16:45	仙台駅にて解散		
		朝食：×	昼食：〇	夕食：×

＜本プログラムのポイント＞

〇　本プログラムの狙い

✓　震災遺構の見学を通じ、震災による被害を具体的に実感し、防災意識の向上を図る

- 荒浜小学校の語り部ツアーを通じて宮城県沿岸地域の震災の様子を体感

✓　行程全体を通じての「震災から復興へ」というストーリーの発信

- 仙台うみの杜水族館では、通常行われていない館内ガイド付きのツアーを体験
- 単なる水族館での生き物見学とするのではなく、被災したマリンピア松島水族館から飼育動物と飼育員が移籍したというストーリーや松島湾のアマモ場の再生に向けた取組など、水族館の運営を通じた復興に向けた想い・取組を発信
- 昼食はマリンピア松島水族館跡地の松島離宮とすることで、午前中のプログラムからのつながりを重視
- アクアイグニス仙台に訪れ、集団移転跡地の賑わい創出に向けた取組と、先進的な自然エネルギーを利用した熱源システムの実証試験等の取組について学ぶ

〇　昨年度の検討結果の反映

- 後半にアクアイグニス仙台への訪問を入れることで**「震災から復興へ」というストーリーを重視した行程**
- コンテンツを３か所に限定し、**余裕のあった行程組み**を実施
- 行程への**スルーガイドの添乗**

７．エクスカーションプログラム行程案について

●産業コース①（みらい旅くらぶ作成）

場所	開始	終了	交通機関	行程
仙台駅 集合 出発	8:45 9:00	9:00	各自 専用車	各自、仙台駅の集合場所に集合 ※マイクロバスの場合は東口貸切バス乗り場 ※ハイエースなどのバンの場合は西口タクシープール
キリンビール 仙台工場	9:30			キリンビール仙台工場に到着。
	9:45	10:45		出前授業にて震災についての基礎知識や防災についての啓発（60分程度）
	11:00	11:45		ビール工場の見学（45分程度）
	12:00	13:00		昼食（基本：ハンバーグランチ）
アクアイグニス 仙台	13:20 14:45			集団移転跡地に賑わいを創出 ・エネルギーの地産地消／4種類の熱回収による蓄熱加温／ 地中熱回収システムを見学しながらの施設案内。 「エネルギー貢献」「環境への貢献」「持続可能な未来への貢献」
三井 アウトレット パーク	15:20	17:00		三井アウトレットパークに到着 ショッピング（90分程度） 当時の津波到達点などを探しながら散策・購入する
仙台駅 到着 解散	17:45 17:45	18:20		仙台駅に到着 ※バスの場合は東口貸切バスバス乗り場 ※ハイエースなどのバンの場合は西口のタクシープールへ 到着後、順次解散となります

＜本プログラムのポイント＞

○ 本プログラムの狙い

✓ 被災地域における産業振興の歩みと新たな挑戦を視察することで、産業面で震災復興を支えてきた事業者の力強い姿を知る。

✓ 行程全体を通じての「震災から復興へ」というストーリーの発信

- 津波による甚大な被害を受けたキリンビール工場の被災の状況と工場再開までの歩み、そして東北復興支援の取組を知る
- アクアイグニス仙台に訪れ、集団移転跡地の賑わい創出に向けた取組と、先進的な自然エネルギーを利用した熱源システムの実証試験等の取組について学ぶ

○ 昨年度の検討結果の反映

- コンテンツを３か所に限定し、**余裕のあった行程組み**を実施
- 行程への**スルーガイドの添乗**
- 行程に商業施設を加えることで、**消費額向上効果**を狙う

７．エクスカーションプログラム行程案について

●産業コース②（JTB仙台支店作成）

交通手段	現地時間	行　程		
専用車	09：00	仙台駅東口貸切バス駐車場に集合		
	09：10	出発		
	09：45	キリンビール仙台工場へ到着		
	10：00	『東北大学出前授業』（60分）		
	11：00	キリンビール仙台工場施設見学（60分）		
	12：00	施設内レストランにて昼食（60分）		
	13：00	キリンビール仙台工場出発		
	13：20	閖上・かわまちテラス到着		
		閖上・かわまちテラス散策（60分）		
	14：20	閖上かわまちテラス出発		
	14：40	JRフルーツパーク到着		
		見学・フルーツ狩り（60分）		
	15：40	JRフルーツパーク出発		
	16：30	仙台駅にて解散		
		朝食：×	昼食：○	夕食：×

＜本プログラムのポイント＞

○ 本プログラムの狙い

✓ 被災地域における産業振興の歩みと新たな挑戦を視察することで、産業面で震災復興を支えてきた事業者の力強い姿を知る。

✓ 行程全体を通じての「震災から復興へ」というストーリーの発信

- 津波による甚大な被害を受けたキリンビール工場の被災の状況と工場再開までの歩み、そして東北復興支援の取組を知る
- 震災後、河川堤防と一体的なまちづくりが進められてきた閖上地域（かわまちテラス閖上）や集団移転跡地に設けられたJRフルーツパークを訪れ、賑わい創出に向けた取組について学ぶ

○ 昨年度の検討結果の反映

- コンテンツを３か所に限定し、**余裕のあった行程組み**を実施
- 行程への**スルーガイドの添乗**
- 行程に商業施設やフルーツパークを加えることで、**消費額向上効果**を狙う

７．エクスカーションプログラム行程案について

●文化コース①（みらい旅くらぶ作成）

場所	開始	終了	交通機関	行程
仙台駅 集合 出発	12:45 13:00	13:00	各自 専用車	各自、仙台駅の集合場所に集合 ※マイクロバスの場合は東口貸切バス乗り場 ※ハイエースなどのバンの場合は西口タクシープール
キリンビール 仙台工場	13:30			キリンビール仙台工場に到着。
	13:45	14:45		出前授業にて震災についての基礎知識や防災についての啓発（60分程度）
	15:00	15:45		ビール工場の見学（45分程度）
3.11 メモリアル 交流館	16:15 16:15	17:00	専用車	3.11メモリアル交流館に到着 スタッフによる説明・案内（45分程度）
(株)鐘崎 七夕館	17:15	18:00	専用車	仙台の文化を代表する「仙台七夕」が年中みられる。 ７つの飾りや仕掛け物などについてもご案内します。 仙台名物の笹かまぼこもお土産に購入できます。
青葉通り 一番町	18:30	20:00	専用車 徒歩	仙台の横丁文化を代表する「壱弐参横丁」または「文化横丁」をご案内します ※壱弐参横丁または文化横丁での食事代含む
仙台駅 到着 解散	20:30	20:30	徒歩	仙台駅に到着 到着後、順次解散となります

＜本プログラムのポイント＞

○ 本プログラムの狙い

✓ 被災地域における産業振興の歩みと新たな挑戦を視察することで、産業面で震災復興を支えてきた事業者の力強い姿を知る。

- 津波による甚大な被害を受けたキリンビール工場の被災の状況と工場再開までの歩み、そして東北復興支援の取組を知る

✓ 震災前後で受け継がれ続けてきた仙台市の文化を知る

- 震災による直接的な被害の状況の展示だけではなく、地域住民や市民団体が集った多様なイベントの開催を通じて、津波で失われかけた荒浜地区の文化を継承し、未来につなげる活動を行う3.11メモリアル交流館を訪問する
- 仙台市の文化の代表である「仙台七夕」の施設の見学や、「壱弐参横丁」「文化横丁」の視察・飲食を通じて、仙台市の文化を知る

○ 昨年度の検討結果の反映

- 仙台市内のコンパクトな旅程により、**余裕のあった行程組み**を実施
- 行程への**スルーガイドの添乗**
- 行程に横丁を加えることで、**消費額向上効果**を狙う

７．エクスカーションプログラム行程案について

●文化コース②（JTB仙台支店作成）

交通手段	現地時間	行　程		
専用車	09：00	仙台駅東口貸切バス駐車場に集合		
	09：10	出発		
	10：10	門脇小学校到着		
		門脇小学校等見学（120分）		
	12：10	門脇小学校出発		
	12：30	いしのまき元気いちば到着		
		いしのまき元気いちばにて昼食（45分）		
	13：15	いしのまき元気いちば出発		
	13：30	石ノ森萬画館到着		
		石ノ森萬画館見学（60分）		
	14：30	石ノ森萬画館出発		
	14：45	松島町到着		
		松島町視察（90分）		
	16：15	松島町出発		
	17：15	仙台駅にて解散		
		朝食：×	昼食：○	夕食：×

＜本プログラムのポイント＞

○　本プログラムの狙い

✓　被災地域における地域文化の存続に向けた取り組みから、市民の復興に向けた意思、想いを知る

- 門脇小学校及び門脇地域の視察を通じて、宮城沿岸部の震災の状況、NPOや市民団体等の復興の取り組みを知る
- 石ノ森萬画館が復興のシンボルとして復活を告げるまでの歩みを知る

✓　日本三景松島の被災状況から復興までの道のりを見学し、松島ならではの文化を守り続けた姿を知る

- 松島町の地域について被災状況、町のコミュニティや松島ならではの文化の継承など、震災による様々な影響を知る。

○　昨年度の検討結果の反映

- コンテンツを３か所に限定し、**余裕のあった行程組み**を実施
- 行程への**スルーガイドの添乗**

８．TOHOKU Waltz Invitation Card & Set Menu

【目的】

○　エクスカーションプログラムはいわばコース料理であり、これに加えて、自前の移動手段を確保できる者をターゲットとして、自分で自由に組み合わせて、より広域的な周遊にもつなげられるアラカルト及びそれらを組み合わせたセットメニューも用意する。

○　施設等の客観的な紹介ではなく、震災からの復興の物語や被災地の想いを主観的に伝えて、人のつながりを生み出すことができるメニューとなるよう、被災地からの招待状「TOHOKU Waltz Invitation Card」（仮称）を作成する。

○　招待状を作成することで、被災地に暮らす人々が自分の地域の物語や魅力を見直すとともに、関係人口を創出し、ともに東北のこれからの物語をつむぐことを目的とする。

【招待状の概要】

○　被災地の若者たちから地域内外の誰かに向けた、東北で会わせたい人、見せたい場所、食べさせたいもの等（紹介物）への招待状。紹介物の写真と文章で構成し、紹介者・紹介物の震災にまつわる物語やなぜ招待するのかを伝える。

○　未成年の招待者の匿名性は担保し、成人については氏名・顔写真等の掲載は任意。

○　成人の招待者も含めて、招待客からのメッセージなどがあれば官民連携推進協議会が仲介する。SNS等による直接双方向のやり取りはできないようにして、招待状を持って東北に足を運び、直接対面することを企図。

【取組案】

○　被災地の大学生・高校生等に招待状を書いてもらい、複数の招待状などを組み合わせたセットメニュー（半日から１日程度の周遊コース）を作成するワークショップなどの実施（協力校の確保）。

○　小中学生に招待状を書いてもらうワークショップなどの実施（公共図書館における催し等を活用）。

○　実践の場などで作成した招待状やセットメニューのプレゼンを実施。

Waltz：４分の３拍子の旋回舞曲。語源はドイツ語で「回転する」waltzen という意味。また、ドイツで職人がマイスターを目指して、各地の現場を訪れ技術等を身に付けるための１～３年間の放浪修行の旅のことをワルツという。放浪の旅・ワルツの期間中は、出身地の半径50km以内には立ち入れない、黒い帽子・ジャケットを着用する等のルールがある。

8．TOHOKU Waltz Invitation Card & Set Menu

【招待状イメージ 表面】

紹介物タイトル（日･英）

紹介物の写真

テキスト（日本語）
※ 10.5ポイント Meiryo UI

【招待状イメージ 裏面】

テキスト（英語）
※ 10.5ポイント Meiryo UI

招待者の情報（日･英）
※ 10.5ポイント Meiryo UI
成人招待者は顔写真等も掲載可

ＱＲ
コード
より詳細な物語･
GIS等へのリンク

８．本年度の実践の場について

○ 本年度の実践の場においては、**関西・大阪万博において紹介するエクスカーションプログラムの造成に向けた議論・企画**を行うこととしたい。（最終的に造成したエクスカーションプログラムについては、万博会場の復興庁ブースでも紹介することを検討中）

○ 実践の場の企画において、取り入れるべき視点として、以下のような視点が考えられるが、このほかの取り入れるべき視点は何か。具体の企画内容としてどのような内容が考えられるか。【論点③】

- ✓ 今年度の取組の中で蓄積された**プログラム造成時のノウハウの横展開**につながる企画
- ✓ 県内のみならず**被災３県でのプログラム造成につながる**ような企画
- ✓ 万博会場において、来訪者に**魅力があると受け止められるようなプログラムの造成**につながる企画